

1 講座名・定員など

(1) 授業科目

No.	科目名	曜日	時限 (注1)	受講期間	受講 回数	授業形式	定員
①	総合文化研究A*日本	月	2 時限	10/12～11/30	8	対面	5 名
②	文化人類学	月	5 時限	10/12～2/1	15	対面	5 名
③	倫理学	月	5 時限	10/12～2/1	15	対面	若干名
④	老年看護学Ⅰ(総論)	火	3 時限	10/13～12/1	7	対面	5 名
⑤	社会福祉の原理と 政策Ⅰ	火	5 時限	10/13～2/2	15	対面	若干名
⑥	保育内容「言葉」の 指導法	火	5 時限	10/13～2/2	15	対面	若干名
⑦	免疫学	水	2 時限	10/14～11/25	7	対面	若干名
⑧	幼児と健康	木	1 時限	10/15～2/4	15	対面	若干名
⑨	幼児と表現(身体表現)	木	3 時限	10/15～2/4	15	対面	若干名
⑩	ソーシャルワークの 理論と方法Ⅰ	金	4 時限	10/9～2/5	15	対面	若干名
⑪	ソーシャルワークの 理論と方法Ⅱ	金	5 時限	10/9～1/29	14	対面 /オンライン	対面・オンライン共に 若干名

(注1) 時限・授業時間について

1 時限： 9：00～10：30

2 時限：10：40～12：10

3 時限：13：00～14：30

4 時限：14：40～16：10

5 時限：16：20～17：50

- ※ 科目、曜日、授業時間等は都合により変更になる可能性がございます。
- ※ 授業形式において、⑪ソーシャルワーク理論と方法Ⅱは、対面授業とオンライン授業の選択が可能です。
 - ①～⑩の科目については、**原則、対面授業**となります。
 - なお、対面授業の科目においても、オンライン授業（オンデマンド授業を含む）となることもあります。
 - オンデマンド授業は、あらかじめ収録した動画を配信期間中に各自で視聴するものです。
 - 受講日までに収録動画の視聴情報(URL 等)を webclass 上に掲載しますので、その情報をもとに受講していただきます。
- ※ すべての科目にてインターネット授業支援システム「Webclass」(注 2)を利用し、授業に関する連絡（資料配布・課題のお知らせ・レポート提出等）を行う場合があります。
- ※ ①総合文化研究 A*日本について
 - 初回（10/12）、第 4 回（11/02）、第 7 回（11/23）はオンデマンド授業です。
 - 教科書の購入が必要になります。
- ※ ②文化人類学について
 - 初回（10/12）、第 2 回（10/19）、第 4 回（11/02）、第 7 回（11/23）、第 12 回（1/4）はオンデマンド授業です。
- ※ ④老年看護学Ⅰ（総論）について
 - 授業資料を「Webclass」に掲載します。ノートパソコンやタブレットなどインターネットにアクセスできるものをご持参してください。
 - 教科書の購入が必要になります。
- ※ ⑧幼児と健康、⑨幼児と表現（身体表現）について
 - からだを動かす回も予定しています。その際は、動きやすい服装（ジャージ・体育館シューズ）での参加が必要です。
- ※ ⑩ソーシャルワークの理論と方法Ⅰについて
 - 授業中に「Webclass」を使用します。授業中の課題への解答、資料閲覧に必要ですので、ノートパソコンやタブレットなどインターネットにアクセスできるものをご持参してください。
- ※ ノートパソコンやタブレットなどの基本的な操作についてのお問い合わせはお受けできません。
- ※ 受講者の成績評価はしませんので、学期末試験はありません。

(注 2) Webclass とは、本学で導入している e ラーニングシステム (学習支援システム) です。授業の教材・資料の閲覧やアンケート・レポート提出等に利用します。

(2) 場所

埼玉県立大学

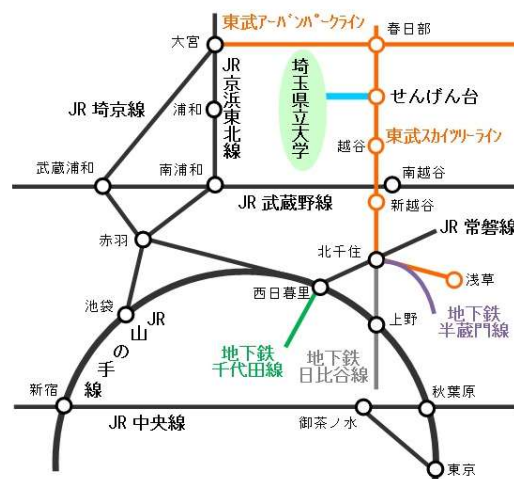
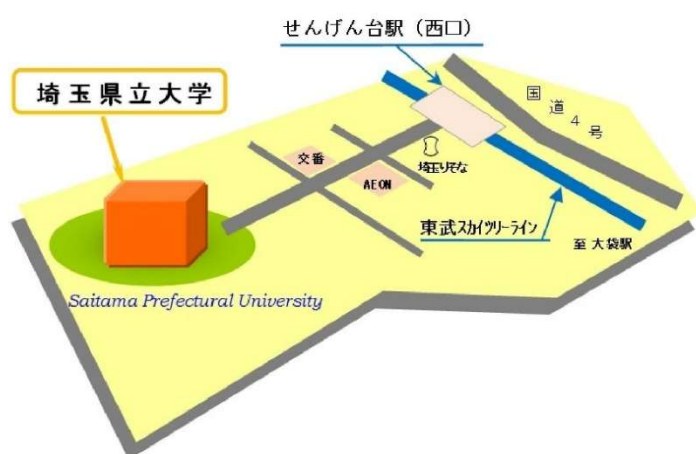
〒343-8540 越谷市三野宮 820 番地

東武スカイツリーライン「せんげん台駅」下車

西口よりバス：5 分 徒歩：約 20 分

※ 自家用車、バイク等による通学は許可できません。

※ 公共交通機関、自転車等をご利用ください。



2 受講料等

(1) 受講料

- ・科目ごとに受講料が必要となります。

※受講回数により受講料が異なります。

8 回相当：6,000 円、15 回相当：10,000 円

- ・受講料は受講決定後に振込となります。

※振込手数料は別途かかります。

No.	科目名	受講料	備考 (受講回数)
①	総合文化研究A*日本	6,000 円	8
②	文化人類学	10,000 円	15
③	倫理学	10,000 円	15
④	老年看護学 I (総論)	6,000 円	7
⑤	社会福祉の原理と政策 I	10,000 円	15
⑥	保育内容「言葉」の指導法	10,000 円	15
⑦	免疫学	6,000 円	7
⑧	幼児と健康	10,000 円	15
⑨	幼児と表現(身体表現)	10,000 円	15
⑩	ソーシャルワークの理論と方法 I	10,000 円	15
⑪	ソーシャルワークの理論と方法 II	10,000 円	14

(2) その他

教科書等の教材を自己負担によりご用意いただく場合があります。

3 受講の申込み

(1) 申込期限 令和8年8月31日(月)

(2) 申込方法

次の応募フォーム、二次元コードよりお申込みください。

<https://business.form-mailer.jp/fms/f8ba7e1e353448>



お申込み完了後（送信後）に受付完了の自動返信メールが届きます。
応募フォーム以外（電話・FAX等）のお申込みは受け付けておりません。
受付完了メールが届かない、応募についての問い合わせ等ございましたら、
お問合せ先までご連絡ください。

(3) お問合せ先

埼玉県立大学 地域連携センター

E-Mail edec@spu.ac.jp

TEL 048-973-4114

(4) 選抜方法

定員を超える申込みがあった場合は、抽選により受講者を決定します。

受講の可否、受講決定科目は、申込期限以降（9月中旬までに）、申込者全員
にお知らせします。

(5) その他

- 申し込み後、都合により受講できなくなった場合は9月30日(水)までに
ご連絡ください。ただし、一旦納入された受講料につきましては、
原則としてお返しすることはできませんので、あらかじめご了承ください。
- 中止または受講方法の変更により受講できなくなった場合に限り受講料を
お返しいたします。
- 天候や社会情勢等により、受講方法が変更となる場合があります。
変更が生じた場合、受講者へ連絡いたします。
対面授業を予定している科目でも、Zoom等のオンライン授業（オンデマンド
受講を含む）となる可能性もございます。
オンライン授業（オンデマンド授業を含む）の場合、大学ではなくご自宅等
において受講いただくことになります。パソコン、タブレットなどのインタ
ーネットに接続できる端末・インターネット通信環境をご準備ください。
ご自宅等で受講いただく場合の通信料は、受講者本人のご負担となります。
- 本学では、病院等への実習を控えた学生もいることから、状況により感染
防止対策等をお願いすることがございます。ご協力お願いいたします。

4 各授業科目の概要等及び担当教員

総合文化研究A*日本 (浅川 泰宏 教授)	【概要】 日本には地域によって特色ある多様な文化があります。地域の文化と歴史の読み解きに焦点をあてた総合的な講義を実施します。今年度は「四国遍路」を事例とします。四国をめぐる巡礼「四国遍路」がどのような地域の文化を織り上げてきたのか。具体的な資料やデータを元に、信仰、病や貧困、巡礼者援助などに焦点をあてながら、地域社会の姿を掘り下げていきます。 対面授業（一部オンデマンド授業）で実施します。 *教科書（星野英紀・浅川泰宏 2021 『四国遍路―さまざまな祈りの世界』吉川弘文館 歴史文化ライブラリー318（POD版）を使用します。 【ねらい】 ①さまざまな人の営みに触れることで、「人間」に興味と敬意を持つことができる。 ②ディスカッションや課題製作を通して、自分のアイデアや考えを掘り起こし、形にできる。
文化人類学 (浅川 泰宏 教授)	【概要】 文化人類学は文化(culture)という観点から人間と社会を考える学問です。文化人類学の基本的な考え方を学び、映像資料等も活用した様々な「フィールドワーク」を通して現代社会の多様な「文化」を体験します。 グループ・ディスカッション、フィールドワーク、学修成果の共有など、皆さんが主体的に活動する形式を取り入れています。自由・活発に思考を働かせ、積極的に活動しながら知性と感性を鍛えていただきます。 対面授業（一部オンデマンド授業）で実施します。 【ねらい】 ①さまざまな人の営みに触れることで、「人間」に興味と敬意を持つことができる。 ②ディスカッションや課題製作を通して、自分のアイデアや考えを掘り起こし形にできる。 ③文化の多様性とダイナミズムの体験を通して、様々な価値が共生する社会像を探究できる。
倫理学 (高村 夏輝 准教授)	【概要】 現代の英語圏で研究されている倫理学に関する様々な議論を紹介・検討する。 相対主義と利己主義という、道徳・倫理に対する根本的な疑いを批判的に検討する。 規範倫理学上の主要な立場である、功利主義・義務論・徳倫理学・正義論を紹介する。 【ねらい】 医療・ケアに関わる人にとって必ず理解しておかなければならない倫理学上の理論や批判について、正しい理解を得ること。 社会的な問題や自分が直面する困難に対して、倫理的観点から考察し、自他が納得できる解決策を作り出す能力を身につけること。

老年看護学Ⅰ（総論） （善生 まり子 教授）	【概要】 老年期のライフステージにある人々の特徴について、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から学習する。老年期の発達段階および発達課題を理解し、加齢や疾病による心身の変化と、それらが老年期の人々の生活に及ぼす影響について考察する。また、老年期にある多様な人々の生活を支える視点から、高齢者を取り巻く社会情勢の変化や課題を学際的に捉えられるよう、老年看護学の基本的な考え方について学習する。 さらに、元気高齢者を対象とした健康増進・疾病予防の意義および方法について理解を深める。加えて、高齢者のエンドオブライフケアの基本となる看護の理念や考え方について学び、老年看護学の基盤となる視点を総合的に身につけることを目指す。 *教科書「ナースングラフィカ老年看護学(1)：高齢者の健康と障害 第8版」堀内ふき，諏訪さゆり，山本恵子編（MC メディカ出版，第8版，2025年1月発行）を使用します。 【ねらい】 ①エイジングの多様性を理解できる。 ②高齢者観と老年看護観を涵養し、老年看護学への関心を深められる。 ③社会資源の有効活用などを含めた高齢者を取り巻く社会制度や環境への認識を高められる。 ④高齢者看護における他職種との連携協働の重要性と大切さを理解できる。
社会福祉の原理と政策Ⅰ （相良 翔 准教授）	【概要】 現代社会ではさまざまな社会変動が起き、それに連動して生活問題や福祉ニーズも多様化・複雑化・複層化が進んでいます。 社会福祉の歴史・理念・思想及び哲学・理論・制度及び政策などに関する基礎的な学習を通じて、現代社会における福祉的課題に向き合うための基礎を築くことを目標とします。 【ねらい】 ・社会福祉の歴史・理念・思想及び哲学・理論・制度及び政策等に関して、その全体像を理解する。 ・私たちの身近な問題として、社会福祉の問題や課題を理解する。
保育内容「言葉」の 指導法 （森田 満理子 准教授）	【概要】 乳幼児の言葉の発達を踏まえ、幼児期の言葉を豊かに育む保育のあり方について、学童期との連続性を踏まえつつ学ぶ。 保育の構想のための教材理解や保育実践事例考察、模擬保育等の実践を通して学ぶ。 【ねらい】 幼児の言葉の発達に係る現状や課題を捉え、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。 ①領域「言葉」のねらい及び内容について、他領域との関連および小学校以降の教育との連続性を踏まえて説明できる。 ②主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定し、幼児理解に基づいて保育を構想する方法を身に付ける。

免疫学 (伊藤 さやか 准教授)	【概要】 免疫は人体の防御機構をつかさどる不可欠な生体システムであり、臨床検査では様々な物質の測定手段に応用されている重要な分野である。免疫システムの基礎についてイラストや図を多用しながら解説することで、具体的なイメージをもって免疫学を理解してもらうことを目指す。各テーマの終わりには小テストに解答してもらうことで、理解度の確認を行う。 基本的に対面で実施するが、状況に応じて、リアルタイム遠隔授業やオンデマンド教材を組み合わせ活用する。 【ねらい】 免疫学の基礎を具体的なイメージをもって理解することにより、今後の専門科目で必要となる論理的かつ総合的な解釈力を身に着ける礎を築く。
幼児と健康 (五味 葉子 助教)	【概要】 乳幼児期は、子どもが生涯にわたる人間形成の基礎を培う極めて重要時期である。乳幼児の基本的な生活習慣、乳幼児の運動を中心に、乳幼児の健康理論と健康づくり実践について学んでいく。グループワークや演習を中心に進める。 ※からだを動かす回も予定しています。その際は、動きやすい服装（ジャージ・体育館シューズ）での参加が必要です。 【ねらい】 保育内容の領域「健康」は、子どもの健康な体と心を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うという観点でまとめている。健康に対する理解と、保育における衛生管理・事故防止、安全対策・危機管理・災害対策、感染症対策及び子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、ガイドラインに沿って具体的に理解することを目的とする。
幼児と表現(身体表現) (五味 葉子 助教)	【概要】 自身が身体を動かす楽しさを体感し、創造的に動くことや身体を使って遊ぶ中で運動あそび、身体表現について教育的意義を認識する。そこから子どもの発達段階に応じた指導内容・方法を知り、援助・指導に必要な知識や技能を習得する。 ※からだを動かす回も予定しています。その際は、動きやすい服装（ジャージ・体育館シューズ）での参加が必要です。 【ねらい】 ・ 幼児の運動発達について把握し、理解する。 ・ 幼稚園教育要領・保育所保育指針に基づくあそびを通じた指導の中での表現や運動あそびの考え方を理解する。 ・ 幼児期の運動指導の基本的な考え方を理解する。 ・ 子どもの経験とさまざまな表現活動・運動あそびを結び付け、総合的に援助・指導できる知識や技能を習得する。

ソーシャルワークの 理論と方法Ⅰ (保科 寧子 准教授)	【概要】 指個別援助（ケースワーク）を中心としたソーシャルワークのプロセスや手法・技法について学び、さまざまな社会の課題にソーシャルワーカーが関連職種とともに対応する具体例を理解します。具体的には支援を必要とする人との援助関係の形成や多角的にクライアントを捉えニーズを理解するための知識と技術、ソーシャルワークの過程、スーパービジョン、コンサルテーションなどの概要を学びます。特に支援を必要とする人のニーズを明らかにするためのアセスメントや支援計画については事例を用いて実践的に理解を深めます。 【ねらい】 ソーシャルワークの理念・価値・倫理を念頭に置き、連携やチームアプローチを意識した個別援助におけるソーシャルワーク実践の方法論について基礎的な知識を身につけます。
ソーシャルワークの 理論と方法Ⅱ (大岡 華子 准教授)	【概要】 社会福祉士・精神保健福祉士に共通するソーシャルワーク実践の基盤となるソーシャルワーク理論、ソーシャルワークを具体的に展開するために不可欠な実践モデルとアプローチ、実践を豊かに展開するための、グループワーク、コミュニティワーク、ソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルアクションについて講義をする。この科目の内容を知識として定着させるとともに演習科目や実習指導、ソーシャルワーク実習を通じ、技術として身につけていく必要がある。 【ねらい】 ①グループを活用した支援を理解し、実践できるようになる。 ②コミュニティワークを理解し、実践できるようになる。 ③ソーシャルアドミニストレーション・ソーシャルアクションを理解し、実践できるようになる。 ④ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチを理解し、実践できるようになる。